



新潟県勢要覧 2026

チューリップ【県の花】昭和 38 年8月 23 日制定



ヨーロッパから輸入された球根をもとに、新潟市(旧新津市)で商業生産が本格化しました。新潟県は日本のチューリップ球根生産の発祥地であり、その高い園芸技術や先進的な取組により、全国への普及にも指導的な役割を果たしました。切り花の出荷量は全国1位を誇ります。 撮影:中村 脩

朱鷺【県の鳥】昭和 40 年9月 13 日指定



国の天然記念物に指定されています。日本産の朱鷺は平成 15 年に絶滅しましたが、中国から寄贈されたペアからの人工繁殖に成功。平成 20 年に1回目の放鳥を行い、野生復帰を果たします。その後も継続的な放鳥と野生下での繁殖成功により、現在、佐渡島では多くの野生の朱鷺が生息しています。 提供:環境省

雪椿【県の木】昭和 41 年8月 27 日制定



雪椿は、暖地に分布するヤブツバキと異なり、その名のとおりの雪の多い日本海側だけに自生する希少種です。枝が細くしなやかで、雪の重みに耐えながら、雪の下に埋もれることで厳しい寒さから身を守り、雪解けを待つ美しい花を咲かせることから、新潟に春を告げる木として知られています。 撮影:中村 脩

県の6つのシンボル

雪割草【県の草花】平成 20 年3月1日指定



新潟県は、雪割草の国内最大級の自生地であるとともに、その花の色や形の変異の豊かさは世界的に注目されています。一時は絶滅も危惧されましたが、多くの県民の皆さんの保護活動により守り育てられてきました。自然を愛し、環境を守るために活動する新潟県民を象徴する草花です。 撮影:中村 脩

錦鯉【県の鑑賞魚】平成 29 年5月5日指定



新潟県は錦鯉の発祥地であり、生産者数は全国一を誇ります。「錦」とは絹織物(着物)のことで、錦鯉の名前は錦の鮮やかな色を例えたものです。

錦鯉の品種は 100 を超えますが、新潟に行けば欲しい鯉が必ず見つかると言われており、新潟県は「錦鯉の聖地」とされています。 撮影:新潟県

翡翠【県の石】令和4年 11 月4日指定



新潟県は国内最大の規模を誇る翡翠の産地であり、宝石の素材となる透明度が高く、良質な翡翠を産出する唯一の産地でもあります。

糸魚川市の小滝川や青海川のヒスイ峡は国の天然記念物であり、糸魚川ユネスコ世界ジオパークの重要な構成資産にもなっています。 提供:糸魚川市